

## 浜の活力再生プラン

## 1 地域水産業再生委員会

組織名	九頭竜川中部流域水産業再生委員会
代表者名	吉田 廣秀

再生委員会の構成員	福井市、坂井市、永平寺町、九頭竜川中部漁業協同組合
オブザーバー	福井県 福井県内水面漁業協同組合連合会 NPO 法人ドラゴンリバー交流会 永平寺川にサケ・サクラマスの上を實現する会 吉峰川のサクラマスを守る会 サクラマスレストレーション 永平寺町ブランド戦略推進委員会

再生委員会規約及び推進体制は別冊「添付資料」

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	○九頭竜川中部流域(福井県坂井市、福井市、永平寺町) ○内水面漁業(アユ、サクラマス) ○組合員数 616名
-------------------	--

## 2 地域の現状

## (1) 関連する水産業を取り巻く現状等

九頭竜川は、岐阜県と福井県の県境を水源とし、福井平野を還流して日本海に注ぐ流域面積2,930km<sup>2</sup>の豊かな水量と美しい清流に恵まれた北陸でも有数の大河川である(資料-1)。九頭竜川中流域は自然豊かで、魚類も15科54種が生息し非常に豊かな魚類相となっている。一方、九頭竜川の河川敷は、スポーツ、リクリエーションの場として利用され、年間4万人以上(H17調査)の市民が利用し親しんでいる。

九頭竜川は、アユ・サクラマス釣りの名所として知られ、毎年県内はもとより関西・中京方面からからの多くの釣り人で賑わっている。

現在、九頭竜川中部漁業協同組合では年間100万尾以上の稚アユを放流している(資料-2 図-1)。しかし、放流アユ種苗の70%以上を県外産に依存しているのが現状である(資料-2 図-2)。また、かつては放流アユ種苗の多くは湖産系であったが、再生産への寄与等の面から海産系へと転換してきている(資料-2 図-3)。さらなる海産系稚アユの購入は、県外に依存することとなるため単価が高くなるばかりか、全国的な海産系稚アユの需要増により入手が困難であるという課題がある。

一方、年間延5万人を超えていた遊漁者数は、レジャーの多様化やアユ釣り技術の難しさからの若者離れなどにより、近年3万人以下までに減少してきており(資料-2 図-4)、漁協経営規模が縮小するばかりでなく、地域の賑わいも低下してきている。このようなことから、漁業者はもとより地域からも、九頭竜川由来の美味しいアユの復活が望まれている。

サクラマスについては、九頭竜川中部漁業協同組合では、現在、1万尾のサクラマス稚魚（県産）を放流している（資料-2 図-5）。これまでの放流努力等によって近年サクラマスの釣果も増える傾向にあり（資料-2 図-6）、遊漁者も増加している。特に平成26年度からは、九頭竜川中部漁業協同組合ではサクラマス遊漁券を発行し遊漁者拡大に努めている。

九頭竜川は、近年、サクラマスの聖地として人気があり、全国の「ブランドリバー」と認知されるとともに、サクラマスのフライフィッシングの発祥の地としても知られている。

一方、最近の伝統的な食文化の復活により、サクラマスの需要も高まってきており、沿川市町からは、九頭竜川産サクラマスの漁獲量の増大が求められている。

しかし、このような状況の中、民間のサクラマスの中間育成施設ではこれ以上の増産は不可能であり、その対応が急務となっている。

九頭竜中部漁業協同組合の組合員数は、近年横ばいで推移しているものの平均年齢は平成26年現在64.6歳であり、10年前より3.5歳高齢化し（資料-2 図-7）、このままでは今後も更に高齢化が進むとともに組合員の減少が懸念される。そこで、アユ、サクラマスを核として漁業・遊漁の振興、活性化を図り、若手組合員及び新規遊漁者の確保・育成を進めていかなければならない。

また、アユ、サクラマスのさらなる販路開拓、消費拡大は大きな課題であり、漁業収益性の向上及び安定のためには解決すべき課題となっている（資料-2 図-8）。特に、現在アユ等の出荷は漁業者個人がそれぞれの方法で魚屋、料理屋等に出荷しているが、価格もまちまちでまた漁獲量も日々変動するなどし、必ずしも収入が安定しているとはいえない。このため、九頭竜川の特性に適した集約した集荷・出荷システムの検討が必要となっている。

## (2)その他の関連する現状等

九頭竜川沿川の永平寺町では、町民一人ひとりが永平寺町に誇りと愛着を持ち、また、町外及び世界からも注目される「永平寺町」を創造するため、「えいへいじブランド」を確立して、広く全国に情報発信することにより活性化を図ろうと、今年8月に町内の商工会、農協、観光物産、漁協等の各種団体からなる「永平寺町ブランド戦略推進委員会」が発足した（資料-3）。この中で、九頭竜川のアユ、サクラマスについても地域の特産品として対象となっており、ブランド戦略の目玉となっている。特にサクラマスを使った葉っぱすしは、昔からこの地域に伝承されてきた伝統文化的価値の高い食べ物として位置づけられ、今後、永平寺町ブランドとして全国に打ち出していくこととなっている。（資料-7 P41,42）

福井県立大学では平成24年度から「九頭竜川プロジェクト」を立ち上げ、地域活性化の一助とするため、福井の母なる川九頭竜川について県内の幅広い関係者、一般市民を対象にしたシンポジウムを毎年開催している。今年度は、「伝えよう！味わおう！九頭竜川の食文化 ～郷土料理を通して九頭竜川の環境への意識を高めよう～」と題し、九

頭竜川のサクラマス、アラレガコ等の食文化、伝統漁法等についてのシンポジウムが開催され、最近の九頭竜川ブームもあり大盛況であった。

また、近年、九頭竜川沿川では、組合員によるアユなどの料理を提供する店が開店されるなど、新たな動きも見られる。(資料-7 P44)

一方、沿川では「永平寺川にサケ・サクラマスの遡上を実現する会」等の市民団体がいくつかに結成され、河川調査、産卵床の整備、魚道の整備などの活動を行っている。

このように、周辺地域全体で九頭竜川のアユ、サクラマス等についての関心が日増しに高まってきており、地域の活性化に欠かせないものとなってきている。

### 3 活性化の取組方針

#### (1) 基本方針

低迷している九頭竜川中流部の水産業の振興を図り、水産業の持続的な発展及び活力ある地域の発展に寄与するため、下記の基本方針により施策を実行し、漁業者の所得向上と地域の活性化を図る。

##### (1) 漁業収入向上のための施策

###### ① 中間育成施設の整備と放流

九頭竜川中部漁業協同組合（以下「漁協」という。）は、平成27年度にアユ、サクラマスの中間育成施設を整備（施設機能：アユ50万尾、サクラマス稚魚（ヤマメ）7万尾育成）し、海産アユ種苗放流量の増大（現在の約70万尾から100万尾に増大）と、サクラマス種苗放流量を増大（現在の約2万尾から3.5万尾に増大）することにより地先資源を増大させ、漁業者の所得向上を図ることとする。また、中間育成により九頭竜川由来のアユ・サクラマスを増加させ、地域ブランドを確立させることにより、さらなる販路拡大を図り所得の向上につなげる。

さらに、漁協では、中間育成施設により育成した要望の高い地場産オトリアユの供給（新たに1.5万尾程度）、サクラマスの九頭竜川系種苗を同水系の他漁協へ販売・提供を増加させる（4万尾程度）ことにより漁業者の所得の向上につなげる。特に、このサクラマス種苗の提供により、九頭竜川水系全体として九頭竜川系統のサクラマスが増え、地域ブランドの確立に寄与することとなる。

###### ② 天然遡上アユの増大

漁業者は、分担して産卵床として可能性のある河床を掻き起こし、浮石とする産卵床を毎年5か所程度造成するとともに、現地にてアユの受精卵放流を行い翌年度の天然遡上を促すこととする。また合わせて、前述の漁協による海産系の稚アユ放流を増加させ、翌年度の天然遡上稚アユを増大させることとする。

###### ③ 遊漁者の増大

漁協は遊漁者を増やすための広報戦略の樹立とその実践により、九頭竜川での自然体験及び九頭竜川産アユ、サクラマス釣りの楽しさ等を広く訴え、遊漁者増につな

げる。このため、漁協は、マスコミに取材等を要請する中で各種釣り大会等のイベントを開催し、その模様や結果などについて漁協のホームページに掲載するなどし、遊漁者の増大を図る。

さらに、⑤で示す漁場の環境整備による漁場への利便性の向上やイメージアップ、また、これまで試行し遊漁者から高い評価を受けている「友釣り専用区」区域拡大等の施策についても検討し、遊漁者の増大を図る。

#### ④消費拡大

漁協及び漁業者は、周辺自治体等と連携したアユ・サクラマスの商品開発、及びブランド化による販路拡大を検討し収益性を向上させる。このため、漁協や再生委員会参加の市民団体等と連携して、アユ・サクラマスを使った新メニューの紹介をそれぞれのホームページで紹介するとともに、料理教室・コンクール等を開催する。また、学校給食に使ってもらうため、まずは近隣地区の小中学校や給食センターに働きかける。

さらに、各所で行われるフェア等に出店し、九頭竜川産アユの美味しさを PR し、消費拡大、遊漁者の増大につなげる。また、漁協や再生委員会参加の市民団体等と連携して、九頭竜川のサクラマスを使った地元の伝統料理「葉っぱ寿司」等を、福井県が企画開催しているデパートでの特産品フェアや東京にある福井県アンテナショップでの販売、また地元市・町の情報発信拠点で紹介し、知名度を高め消費拡大を図る。

#### ⑤漁場の環境整備

漁協及び漁業者は、釣りシーズン前に堤防から釣り場までのアクセス道路や駐車場の整備、水辺の樹木伐採、ゴミ拾い等の河川美化活動等による釣り場環境の整備を行う(資料-2 図-9)。このことにより、漁業の効率性・生産性が向上し、また、イメージアップによる遊漁者数の増大にもつながる。

#### ⑥担い手の育成

活力ある漁業を取り戻すためには、若い漁業者の就労が必要である。このため、漁協は、漁業の魅力を知ってもらう広報誌を作成し HP への掲載や配布により、若い漁業者を積極的に勧誘する。また、漁協は漁業者の中から釣りの指導者を選出して「釣り指導者」制度を組織し、釣り人口を拡大していく。

この「釣り指導者」は、経験の浅い漁業者・遊漁者には釣り技術を、子供、女性には自然体験の中での釣りの楽しさをなど、対象者に応じたクラス分けを行い釣り教室を開催する。特に最近見られるようになった女性の釣り客は担い手として有望であり、また次代の子供たちの育成も将来の担い手の育成という長期的な視点から積極的に育成していく。

#### ⑦集荷・出荷システムの検討

現在アユ等の出荷は漁業者個人が個別に行っているが、価格もまちまちで、また漁獲量も日々変動するなどし、必ずしも収入が安定しているとはいえない。このため、漁協において集荷・出荷を集約し、安定的に販売することにより、効率的に、また、より適正な価格で販売できる仕組みを検討する。このことにより、漁業者の安定的な収益確保を目指す。

## (2) 漁業コスト削減のための施策

### ① 中間育成施設によるコスト縮減

漁協では、これまで放流稚アユは全て県内外から購入していたが、中間育成施設の整備により、放流量の半分の 50 万尾を直接漁協で中間育成することで購入費用の節減、運搬費の削減等により大きく漁業コストの削減を図ることとする。

また、サクラマスについては、放流種苗は全て県内業者に委託し中間育成していたが、中間育成施設の整備により漁協で中間育成することが可能となり、大幅な漁業コストの削減を図ることとする。

### ② 中間育成技術の研修・習得

中間育成は、対象が生き物であることから、その管理方法によって稚アユの死滅量、成長等が大きく左右される。このため、成長段階に応じた育成技術（水槽の水管理、餌管理、光の管理、早期の病気発見と対策など）の技術習得により死滅率の減少が図られ、効率的・経済的な中間育成が可能となり、この結果、中間育成経費の節減につなげることができる。

以上のことから、漁協は、福井県内水面総合センターや民間経験者などから、実技研修等を受け、飼育員のスキルアップを図る。

また、漁協は将来の種苗生産に備え、天然のサクラマスから種苗生産技術の開発を行う。

## (2) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

福井県内水面漁業調整規則 九頭竜川中部漁業協同組合漁業権行使規則及び遊魚規則により

○アユについては、11月15日～6月13日は全面禁漁とし、漁具・漁法についても規制

○ヤマメ・サクラマスについては本川支川別、また区間別にきめ細かく禁漁を定め、漁具・漁法についても規制

等々

(資料-4)

これらの規則により、水産資源の保護を図りつつ安定的な漁業活動を行っている。

(3) 具体的な取組内容

1 年目(平成 27 年度)

今年度の所得向上目標：対基準年比 0.1%

なお、以下の取組内容は、取組の進捗状況や得られた成果等を踏まえ、必要に応じて見直すこととする。

<b>漁業収入向上 のための取組</b>	<p><b>① 中間育成施設の整備</b></p> <p>漁協は、福井県吉田郡永平寺町飯島地先にアユ・サクラマス種苗の中間育成施設を整備し、放流種苗の大型化を進めることにより生産性を高め、アユ等の資源の増大を図る。</p> <div data-bbox="520 595 1334 846" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p>[施設機能] アユ50万尾育成、サクラマス稚魚（ヤマメ）7万尾育成</p><p>[施設規模]</p><p>建物敷地面積 3,700㎡ 鉄骨造平屋建約1,020㎡</p><p>100㎡水槽：6池 50㎡水槽：1池 30㎡水槽：1池</p><p>15㎡水槽：1池 受水槽100㎡ (資料-5)</p></div> <p>また、漁協は漁業者の意見を聴取しオトリ鮎の提供方法等について検討する。</p> <p><b>② 天然遡上アユの増大等</b></p> <p>漁業者は、アユの産卵床として可能性のある河床を掻き起こし、はまり石から浮石とする産卵床を造成することによって円滑な再生産を促し、翌年度の天然遡上の増大につなげることで、収入向上を図るよう検討を行う。</p> <p>具体的箇所は河床礫石の状況を調査し実施するが、福井市寺前地先など5箇所程度を行う。また、現地にてアユの受精卵放流も3か所程度で行う予定。</p> <p>また、漁協は将来のサクラマス種苗生産に備え、福井県内水面総合センターや民間と共同で天然のサクラマスから種苗生産技術の開発を行うことについて検討する。</p> <p><b>③遊漁者の増大</b></p> <p>漁協及び漁業者は、遊漁者を増やすための広報戦略の樹立とその実践により、九頭竜川及び九頭竜川産アユ、サクラマス釣りの楽しさ等を広くPRし、遊漁者の増加につなげるための検討を行う。</p> <p>このため漁協及び漁業者は、マスコミに取材等を要請する中で、釣具メーカー等との共催で年2回程度全国釣り大会を開催し情報発信するとともに、その結果についてもメーカーの情報誌や漁協のホームページに掲載し、九頭竜川での釣りの楽しさや醍醐味を広く宣伝し、遊漁者の増大を図る。</p> <p><b>④消費拡大</b></p> <p>漁協及び漁業者は、永平寺町ブランド戦略推進委員会（事務局 永平寺町）や民間事業者等と連携し、アユ・サクラマスの商品開発等による</p>
--------------------------	--

	<p>販路拡大を検討する。</p> <p>漁業者は、永平寺町主催の「食のめぐみフェア」等に出店し九頭竜川産アユの美味しさをPRし、消費拡大、遊漁者の増大につなげる。</p> <p><b>⑤漁場の環境整備</b></p> <p>漁協及び漁業者による堤防から釣り場までのアクセス道路や駐車場の整備、水辺の樹木伐採をアユの解禁前に行う。また、アユ釣り解禁前に漁業者によるゴミ拾いや地域と連携したクリーン作戦等の河川美化活動を各1回行う。</p> <p>このことにより、釣り場環境の改善が図られ、漁業生産性の向上、イメージアップによる遊漁者数の増大につなげる。</p> <p><b>⑥担い手の育成</b></p> <p>活力ある漁業を取り戻すためには、若い漁業者の就労が必要である。このため、漁協は、漁業の魅力を知ってもらう広報誌を作成しHPへの掲載や配布を行う。また「釣り指導者」の組織化に向けた検討を行う。</p> <p><b>⑦集荷・出荷システムの検討</b></p> <p>個々の漁業者が各自出荷を行うやり方では、安定的な供給が難しいため、漁協が漁業者等からアユ等を買入れ、一元的に出荷する効率的な集荷・出荷システムの方針の検討をはじめめる。</p>
<p><b>漁業コスト削減のための取組</b></p>	<p><b>① 中間育成技術の研修</b></p> <p>中間育成技術の如何により効率性・経済性が大きく左右する。このことから、漁協は、福井県内水面総合センターや民間の経験者などから、実技研修等を受け、飼育員のスキルアップを図り中間育成経費の縮減を図る。</p>
<p><b>活用する支援措置等</b></p>	<p>施設整備支援事業（ハード事業） 産地水産業強化支援事業（ソフト事業）</p>

**漁業収入向上  
のための取組**

**① 中間育成施設による中間育成魚の放流**

漁協は、中間育成施設によるアユ、サクラマス稚魚の放流増と、湖産系稚アユ放流から海産系稚アユ放流への一部転換により資源の増大を図り、漁業者の収入向上を図る。

このため今年度は中間育成初年度であることから、10万尾のアユの育成を行い放流する。海産系稚アユは例年通り70万尾程度を購入し、湖産アユは20万尾程度購入放流する。

サクラマスについては、中間育成初年度であることから外部委託による育成と中間育成施設による育成とを概ね半々とし、中間育成を試行する。

**② 天然遡上アユの増大等**

漁業者は、アユの産卵床として可能性のある河床を掻き起こし、はまり石から浮石とする産卵床を造成することによって円滑な再生産を促し、翌年度の天然遡上の増大につなげることで、収入向上を図るよう検討を行う。

具体的箇所は河床礫石の状況を調査し実施するが、福井市寺前地先など5箇所程度を行う。また、現地にてアユの受精卵放流も3か所程度で行う。

また、漁協は将来のサクラマス種苗生産に備え、福井県内水面総合センターや民間と共同で天然のサクラマスから種苗生産技術の開発を行うことについて検討する。

**③ 遊漁者の増大**

漁協及び漁業者は、遊漁者を増やすための広報戦略の樹立とその実践により、九頭竜川及び九頭竜川産アユ、サクラマス釣りの楽しさ等を広く訴え、遊漁者の増加につなげる。

このため漁協及び漁業者は、マスコミに取材等を要請する中で、釣具メーカー等との共催で年2回程度全国釣り大会を開催し情報発信するとともに、その結果についてもメーカーの情報誌や漁協のホームページに掲載し、九頭竜川での釣りの楽しさや醍醐味を広く宣伝し、遊漁者の増大を図る。

また漁協では、今年度

- ・ 全国の主要河川の広報の実態調査
- ・ 九頭竜川漁業の実態調査及び写真記録

を行い、広報のあり方、方向性を検討する。

**④ 消費拡大**

漁協及び漁業者は永平寺町ブランド戦略推進委員会（事務局 永平寺町）と連携し、アユ・サクラマスの商品開発等による販路拡大を検討する。また、漁協は再生委員会参加の市民団体等と連携して、アユ・サクラマスを使った新メニューをそれぞれのホームページで紹介するとと



	<p>もに、学校給食に使ってもらうため、まずは近隣地区の小中学校や給食センターに働きかける。</p> <p>漁業者は、永平寺町主催の「食のめぐみフェア」等に出店し九頭竜川産アユの美味しさをPRし、消費拡大、遊漁者の増大を図る中で収入向上につなげる。</p> <p><b>⑤漁場の環境整備</b></p> <p>漁協及び漁業者による堤防から釣り場までのアクセス道路や駐車場の整備、水辺の樹木伐採をアユの解禁前に行う。また、アユ釣り解禁前に漁業者によるゴミ拾いや地域と連携したクリーン作戦等の河川美化活動を各1回行う。</p> <p>このことにより、釣り場環境の改善が図られ、漁業生産性の向上、イメージアップによる遊漁者数の増大を図り、収入向上につなげる。</p> <p><b>⑥担い手の育成</b></p> <p>活力ある漁業を取り戻すためには、若い漁業者の就労が必要である。このため、漁協や組合員は、漁業の魅力を知ってもらう広報誌を作成しHPへの掲載や配布を行い若い漁業者を勧誘する。</p> <p>また、漁協は漁業者の中から釣り指導者を選出して「釣り指導者」制度を組織し、経験の浅い漁業者、遊漁者には釣り場情報の提供や釣り技術の指導要望窓口を設置し応えるとともに、子供、女性に対しては親子釣り教室を夏休みに1回開催する。</p> <p><b>⑦集荷・出荷システムの検討</b></p> <p>個々の漁業者が各自出荷を行うやり方では、安定的な供給が難しいため、漁協が漁業者等からアユ等を買入れ、一元的に出荷する効率的な集荷・出荷システムを具体的に検討する。</p>
<p><b>漁業コスト削減のための取組</b></p>	<p><b>①中間育成施設によるコスト縮減</b></p> <p>これまで放流稚アユは全て県内外から購入していたが、中間育成施設の整備によりその多くを育成することにより、漁業コストを大幅に削減させる。</p> <p>サクラマスについては、放流するヤマメは全て県内業者に委託し中間育成していたが、中間育成施設の整備により半分程度中間育成することが可能となり、漁業コストを大幅に削減させる。</p> <p><b>②中間育成技術の研修</b></p> <p>漁協は昨年に引き続き、効率的・経済的な中間育成が行えるよう福井県内水面総合センターや県内民間施設の指導を受け飼育者の中間育成技術のスキルアップを図る。このことにより漁業コスト削減に繋げる。</p>
<p><b>活用する支援措置等</b></p>	<p>産地水産業強化支援事業（ソフト事業）</p>

**漁業収入向上  
のための取組**

**① 中間育成施設による中間育成魚の放流**

中間育成施設によるアユ、サクラマス稚魚の放流量と、湖産系稚アユ放流から海産系稚アユ放流への転換により資源の増大を図り、漁業者の収入向上を図る。

このため今年度は放流鮎の中間育成 2 年目であることから、漁協は、施設規模の 50 万尾のアユの中間育成を行い放流する。また、海産系稚アユを同数程度購入し放流する。中間育成すること等によりアユ資源が増大し、漁獲高が増大する。

サクラマスについては、中間育成 2 年目であることから、漁協は外部委託による育成を大幅に減らし、その大半を中間育成施設にて育成する。

**② 天然遡上アユの増大等**

漁業者は、アユの産卵床として可能性のある河床を掻き起こし、はまり石から浮石とする産卵床を造成し、翌年度の天然遡上を促し、収入向上につなげる。

具体的箇所は河床礫石の状況を調査し実施するが、福井市寺前地先など 5 箇所程度を行う。また、現地にてアユの受精卵放流も 3 か所程度で行う。

また漁協は、この間に協議された方針に基づき、将来のサクラマス種苗生産に備え、福井県内水面総合センターや民間と共同して種苗生産技術の開発を行う。

**③ 遊漁者の増大**

漁協及び漁業者は、遊漁者を増やすための広報戦略の樹立とその実践により、九頭竜川及び九頭竜川産アユ、サクラマス釣りの楽しさ等を広く訴え、遊漁者の増加につなげる。

このため漁協及び漁業者は、マスコミに取材等を要請する中で、釣具メーカー等との共催で年 2 回程度全国釣り大会を開催し情報発信するとともに、その結果についてもメーカーの情報誌や漁協のホームページに掲載し、九頭竜川での釣りの楽しさや醍醐味を広く宣伝し、遊漁者の増大を図る。

また漁協は、今年度は、昨年度の広報のあり方、方向性の検討結果を分析し、改善を図る中で具体的な広報戦略を検討する。

**④ 消費拡大**

漁協及び漁業者は、永平寺町ブランド戦略推進委員会（事務局 永平寺町）や民間事業者等と連携し、この間の検討結果を踏まえ、アユ・サクラマスの商品開発等による販路拡大を図ることにより収入向上につなげる。また、漁協や再生委員会参加の市民団体等と連携して、アユ・サクラマスを使った新メニューをそれぞれのホームページで紹介するとともに、料理教室・コンクール等を開催する。

	<p>漁協及び漁業者は、永平寺町主催の「食のめぐみフェア」に出店し、九頭竜川産アユの美味しさをPRし、消費拡大、遊漁者の増大につなげる。さらに、飲食店、ホテル・旅館等についての販路拡大策の検討に着手する。</p> <p>今年度からは、漁協としてオトリアユの提供を試行する。また、中間育成を行った九頭竜川産サクラマス稚魚（ヤマメ）を九頭竜川水系の他漁協に昨年より多く提供することにより収入向上につなげる。</p> <p><b>⑤ 漁場の環境整備</b></p> <p>漁協及び漁業者による堤防から釣り場までのアクセス道路や駐車場の整備、水辺の樹木伐採をアユの解禁前に行う。また、アユ釣り解禁前に漁業者によるゴミ拾いや地域と連携したクリーン作戦等の河川美化活動を各1回行う。</p> <p>このことにより、釣り場環境の改善が図られ、漁業生産性の向上、イメージアップによる遊業者数の増大につなげる。</p> <p>また漁協は、河川管理者と河川の美化等についての役割分担等について協議する場を設け、河川環境・釣り場環境の改善等について検討する。</p> <p><b>⑥ 担い手の育成</b></p> <p>活力ある漁業を取り戻すためには、若い漁業者の就労が必要である。このため、漁協は、漁業の魅力を知ってもらう広報誌を作成しHPへの掲載や配布を行い若い漁業者を勧誘する。</p> <p>また、漁協は漁業者の中から釣り指導者を選出して「釣り指導者」制度を組織する。経験の浅い漁業者、遊漁者には釣り場情報の提供や釣り技術の指導要望窓口を設置し応えるとともに、子供、女性に対する釣り教室を夏休みに1回開催する。</p> <p><b>⑦ 集荷・出荷システムの検討</b></p> <p>漁協は効率的な集荷・出荷システムを検討し収益性を向上させるため、この間の検討結果に基づくシステムの試行を行う。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p><b>① 中間育成施設によるコスト縮減</b></p> <p>これまで放流稚アユは全て購入していたが、中間育成施設の建設によりその多くを育成することにより、漁業コストを大幅に削減させる。</p> <p>サクラマスについては、放流するヤマメは全て県内業者に委託し中間育成していたが、中間育成施設の建設により中間育成することが可能となり、漁業コストを大幅に削減させる。</p> <p><b>② 中間育成技術の研修</b></p> <p>漁協は、昨年に引き続き、効率的・経済的な中間育成が行えるよう県内水面総合センターや県内民間施設の指導を受け飼育者の中間育成技術のスキルアップを図る。このことにより漁業コスト削減に繋げる。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>産地水産業強化支援事業（ソフト事業） 産卵場・稚魚育成場造成（国・県）</p>

漁業収入向上  
のための取組

① 中間育成施設による中間育成魚の放流

漁協では中間育成施設によるアユ、サクラマス稚魚の放流増と、湖産系稚アユ放流から海産系稚アユ放流への転換により資源の増大を図り、収入向上につなげる。

このため今年度は放流鮎の中間育成3年目であり昨年に引き続き施設規模の50万尾のアユの中間育成を行い放流する。海産系稚アユは同数程度購入し放流する。中間育成すること等によりアユ資源が大幅に増大し、漁獲高が増大する。

サクラマスについては、中間育成3年目であることから、外部委託による育成は行わず50万尾全てを中間育成施設による育成する。

② 天然遡上アユの増大等

漁業者は、アユの産卵床として可能性のある河床を掻き起こし、はまり石から浮石とする産卵床を造成し、翌年度の天然遡上を促し、収入向上につなげる。

具体的箇所は河床礫石の状況を調査し実施するが、福井市寺前地先など5箇所程度を行う。また、現地にてアユの受精卵放流も3か所程度で行う。

また、漁協は将来のサクラマス種苗生産に備え、この間に協議された方針に基づき、県内水面総合センターや民間と共同して天然サクラマスから種苗生産技術の開発を行う。

③ 遊漁者の増大

漁協及び漁業者は、遊漁者を増やすための広報戦略の樹立とその実践により、九頭竜川及び九頭竜川産アユ、サクラマス釣りの楽しさ等を広くPRし遊漁者の増加につなげる。

このため漁協及び漁業者は、マスコミに取材等を要請する中で、釣具メーカー等との共催で年2回程度全国釣り大会を開催し情報発信するとともに、その結果についてもメーカーの情報誌や漁協のホームページに掲載し、九頭竜川での釣りの楽しさや醍醐味を広く宣伝し、遊漁者の増大を図る。

また今年度は具体的な広報戦略を策定する。

④ 消費拡大

漁協及び漁業者は永平寺町ブランド戦略推進委員会（事務局 永平寺町）や民間事業者等と連携し、この間の検討結果を踏まえ、アユ・サクラマスの商品開発等による販路拡大を検討する。また、昨年に引き続き学校給食、飲食店、ホテル・旅館等についての販路拡大を図ることにより収入向上につなげる。また、漁協は再生委員会参加の市民団体等と連携して、九頭竜川のサクラマスを使った地元の伝統料理「葉っぱ寿司」等を、福井県が企画開催しているデパートでの特産品フェアや東京にある福井県アンテナショップでの販売、また地元市・町の情報発信拠点で

	<p>紹介し、知名度を高め消費拡大を図る。</p> <p>漁協は、今年度は昨年に引き続き、中間育成を行った九頭竜川産サクラマス稚魚（ヤマメ）を九頭竜川水系の他漁協に提供するとともに、オトリアユの提供も昨年以上にその数を増やし収入向上につなげる。</p> <p><b>⑤漁場の環境整備</b></p> <p>漁協及び漁業者による堤防から釣り場までのアクセス道路や駐車場の整備、水辺の樹木伐採をアユの解禁前に行う。また、アユ釣り解禁前に漁業者によるゴミ拾いや地域と連携したクリーン作戦等の河川美化活動を各1回行う。</p> <p>このことにより、釣り場環境の改善が図られ、漁業生産性の向上、イメージアップによる遊漁者数の増大を図ることにより収入向上につなげる。</p> <p>また漁協は、河川管理者と協議を行った結果を踏まえ、河川環境・釣り場環境の改善等について実践する。</p> <p><b>⑥担い手の育成</b></p> <p>活力ある漁業を取り戻すためには、若い漁業者の就労が必要である。このため、漁協は、漁業の魅力を知ってもらう広報誌を作成しHPへの掲載や配布を行い若い漁業者を勧誘する。</p> <p>また、漁協は漁業者の中から釣り指導者を選出して「釣り指導者」を組織し、担い手を育成する。経験の浅い漁業者、遊漁者には釣り場情報の提供や釣り技術の指導要望窓口を設置し応えとともに、子供、女性に対しては釣り教室を夏休みに1回開催する。</p> <p><b>⑦集荷・出荷システムの検討</b></p> <p>漁協は、効率的な集荷・出荷システムを検討し収益性を向上させるため、昨年度の試行結果に基づき、問題点の洗い出しを行い、システムの改善を図る。</p>
<p><b>漁業コスト削減のための取組</b></p>	<p><b>①中間育成施設によるコスト縮減</b></p> <p>これまで放流稚アユは全て県内外から購入していたが、中間育成施設の建設によりその多くを育成することにより漁業コストを大幅に削減させる。</p> <p>サクラマスについては、放流するヤマメは全て県内業者に委託し中間育成していたが、中間育成施設の建設によりその全てを中間育成することとなり、漁業コストを大幅に削減させる。</p> <p><b>②中間育成技術の研修</b></p> <p>漁協は、昨年に引き続き、効率的・経済的な中間育成が行えるよう県内水面総合センターや経験者の指導を受け飼育員の中間育成技術のスキルアップを図る。このことにより漁業コスト削減に繋げる。</p>
<p><b>活用する支援措置等</b></p>	<p>産卵場・稚魚育成場造成（国・県）</p>

5年目(平成31年度)

今年度の所得向上目標: 対基準年比 11.8%

なお、本年は取組の最終年であり、下記の取組を引き続き行うこととするが、目標達成を確実なものとするようプラン取組の成果を検証し、必要な見直しを行うこととする。

<b>漁業収入向上のための取組</b>	<p><b>① 中間育成施設による中間育成魚の放流</b></p> <p>漁協は中間育成施設によるアユ、サクラマス稚魚の放流増と、湖産系稚アユ放流から海産系稚アユ放流への転換により資源の増大を図り収入向上につなげる。</p> <p>このため今年度は、放流鮎の中間育成4年目であり、施設規模の50万尾のアユの中間育成を行い放流する。海産系稚アユも同数程度購入し放流する。</p> <p>中間育成すること等によりアユ資源が増大し、漁獲高が増大する。</p> <p>サクラマスについては、中間育成4年目であり、外部委託による育成は行わず全てを中間育成施設により育成する。</p> <p><b>② 天然遡上アユの増大等</b></p> <p>漁業者は、アユの産卵床として可能性のある河床を掻き起こし、はまり石から浮石とする産卵床を造成し、翌年度の天然遡上を促し、収入向上につなげる。具体的箇所は河床礫石の状況を調査し実施するが、福井市寺前地先など5箇所程度を行う。</p> <p>また、現地にてアユの受精卵放流も3か所程度で行う。</p> <p>一方、漁協は、この間に協議された方針に基づき、サクラマスの種苗生産のために、県内水面総合センターや民間と共同して天然サクラマスから種苗生産魚術の開発を行う。</p> <p><b>③ 遊漁者の増大</b></p> <p>漁協及び漁業者は、遊漁者を増やすための広報戦略の樹立とその実践により、九頭竜川及び九頭竜川産アユ、サクラマス釣りの楽しさ等を広く訴え、遊漁者の増加につなげる。</p> <p>このため漁協及び漁業者は、マスコミに取材等を要請する中で、釣具メーカー等との共催で年2回程度全国釣り大会を開催し情報発信するとともに、その結果についてもメーカーの情報誌や漁協のホームページに掲載し、九頭竜川での釣りの楽しさや醍醐味を広く宣伝し、遊漁者の増大を図る。</p> <p>また今年度は、昨年度に策定した広報戦略を踏まえ、釣り関係雑誌と共同で記事にするなど、積極的に具体的な行動を行う。</p> <p><b>④消費拡大</b></p> <p>漁協及び漁業者は永平寺町ブランド戦略推進委員会(事務局 永平寺町)や民間事業者等と連携し、この間の検討結果を踏まえ、アユ・サクラマスの商品開発等による販路拡大を図ることにより収入向上につなげる。また、引き続き学校給食、飲食店、ホテル・旅館等についての販路拡大を図り、漁協と再生委員会参加の団体等と連携して、九頭竜川のサクラマスを使った地元の伝統料理「葉っぱ寿司」等を、福井県が企画</p>
---------------------	---

	<p>開催しているデパートでの特産品フェアや東京にある福井県アンテナショップでの販売、また地元市・町の情報発信拠点で紹介し、知名度を高め消費拡大を図る。</p> <p>また漁協は、今年度からは、中間育成を行った九頭竜川産サクラマス稚魚（ヤマメ）を九頭竜川水系の他漁協に提供するとともに、オトリアユの提供を拡大させることで収入向上を図る。</p> <p><b>⑤漁場の環境整備</b></p> <p>漁協及び漁業者による堤防から釣り場までのアクセス道路や駐車場の整備、水辺の樹木伐採をアユの解禁前に行う。また、アユ釣り解禁前に漁業者によるゴミ拾いや地域と連携したクリーン作戦等の河川美化活動を各1回行う。このことにより、釣り場環境の改善が図られ、漁業生産性の向上、イメージアップによる遊漁者数の増大につなげる。</p> <p>また漁協は、河川管理者との協議結果を踏まえ、河川環境・釣り場環境の改善等について実践する。</p> <p><b>⑥担い手の育成</b></p> <p>活力ある漁業を取り戻すためには、若い漁業者の就労が必要である。このため、漁協は、漁業の魅力を知ってもらう広報誌を作成しHPへの掲載や配布を行い若い組合員を勧誘する。</p> <p>また、漁協は漁業者の中から釣り指導者を選出して「釣り指導者」制度を組織し、経験の浅い漁業者、遊漁者、未経験者等に釣りの楽しさを教え将来の担い手確保に努める。経験の浅い漁業者、遊漁者には釣り場情報の提供や釣り技術の指導要望窓口を設置し応えとともに、子供、女性には釣り教室を夏休みに1回開催する。</p> <p><b>⑦集荷・出荷システムの検討</b></p> <p>漁協は効率的な集荷・出荷システムを検討し収益性を向上させるため、昨年度の検討結果等に基づき、試行を重ねる。</p>
<p><b>漁業コスト削減のための取組</b></p>	<p><b>①中間育成施設によるコスト縮減</b></p> <p>これまで放流稚アユは全て購入していたが、中間育成施設の整備によりその多くを育成でき、大きく漁業コスト削減が可能となる。</p> <p>サクラマスについては、放流ヤマメは全て県内業者に委託し中間育成していたが、中間育成施設の整備により今年は全て中間育成することが可能となり、大きく漁業コストが削減できる。</p> <p><b>②中間育成技術の研修</b></p> <p>漁協は昨年に引き続き、効率的・経済的な中間育成が行えるよう、県内水面総合センター等の指導を受け飼育者の中間育成技術のスキルアップを図る。このことにより漁業コスト削減に繋げる。</p>
<p><b>活用する支援措置等</b></p>	<p>産卵場・稚魚育成場造成（国・県）</p>

## (2) 関係機関との連携

九頭竜川沿川の永平寺町では、町外及び世界からも注目される「永平寺町」を創造するため、「えいへいじブランド」を確立して、広く全国に情報発信することにより活性化を図ろうと、今年8月に九頭竜川中部漁協を始め、町内の商工会、農協、観光物産協会等の各種団体からなる「永平寺町ブランド戦略推進委員会」が発足した。この中で、九頭竜川のアユ、サクラマスについても地域の特産品として対象となっており、ブランド戦略の目玉となり、今後永平寺町ブランドとして打ち出していくこととなっている。このため、「永平寺町ブランド戦略推進委員会」と連携し、九頭竜川産のアユ、サクラマスとしてブランド力を高め販路拡大に努めていくこととしている。

福井市では「福井市林業水産業振興プラン」が策定されており、「力強い漁業生産力の向上」、「魅力ある福井市の水産物の創出」、「親しまれる魚食普及を推進する」の3つの目標が設定され具体的な施策が挙げられている。

また、坂井市では「坂井市総合計画」の中で、内水面漁業などの水産業の振興が掲げられており、特色を活かした水産業の振興のための各種支援施策が計画されている。

これら沿川市町の施策は本再生プランと重なるものも多く、連携して推進することがそれぞれの計画の推進につながり、また相乗効果を生むこととなる。

その他、福井県立大学との「九頭竜川プロジェクト」との連携、「永平寺川にサケ・サクラマスの遡上を実現する会」、「ドラゴンリバー交流会」等の市民団体との連携、学校との連携など緩やかな幅広い連携によって、日増しに高まりつつある九頭竜川の魅力、九頭竜川産アユ・サクラマスの魅力など、九頭竜川水産業の活力を再生し、地域発展に寄与していく。

## 4 目標

### (1) 数値目標

漁業所得向上 10%以上	基準年	平成 年度：	漁業所得	千円
	目標年	平成 年度：	漁業所得	千円

組合員全体の漁業所得を示す

### (2) 上記の算出方法及びその妥当性

--



## 5 関連施策

### 活用を予定している関連施策名とその内容及びプラントの関係性

事業名	活事業内容及び浜の活力再生プラントの関係性
施設整備支援事業 (ハード事業)	中間育成施設を整備し、地先資源の増大を図る。
産地水産業強化支援事業 (ソフト事業)	産地水産業強化計画において定める地先資源、共同利用施設等の利活用のための調査、新たなマーケットの開拓のための取組及び地先資源、共同利用施設等の利活用のための知識・技術の習得を行う。
産卵場・稚魚育成場造成 (国・県)	産卵や稚魚の育成の場を造ることを目的とした河床の整備、産卵床の設置等 (産卵育成用人工河川を含む) を行う。